

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会
第 40 号
2014 (平成26) 年6月21日 (土)

「論語じゅく」

札幌市立厚別東小学校6年 金子 沙紀

私が論語じゅくに通うきっかけとなったのは、お父さんがインターネットでこの論語じゅくを見つけたからです。最初、何があるかもわからず、入会しました。でも、だんだん通ううちに新田先生のおかげで論語とは、どういうものなのか、わかるようになり、今では君子や小人が言われなくてもどういう人かがわかるようになりました。素読は、まだ意味はあまりわからずに声を出してただ読んでいただけですが、あとから新田先生が意味を教えてくださいましたのでだいたいはわかるようになりました。

坐ぜんをやることで気持ちを落ち着かせることができるからやっぱり坐ぜんは大切なことだと思います。私には好きな論語が二つあります。一つ目は、「子曰わく、過ちて改めざる、是を過ちと謂う。」です。これは、新田先生も少し話していましたが、衛霊公第十五・第三十章に出てきます。好きな理由は、覚えやすいしわかりやすい意味だからです。二つ目は、為政第二の第十五章に出てくる「子曰わく、学びて思わざれば則ち罔し。思いて学ばざれば則ち殆し。」です。好きな理由は、意味が学ぶのも考えるのもどちらも同じくらい大切だ。ということがとてもいい意味だと思ったからです。

一つ目と二つ目は、どちらも小学5年生の国語の教科書にのっています。

これからもいろんな論語を覚えて感想を持てるようにしたいと思っています。

※ 来月(7月)は、藤寫 梨乃さんをお願いします。

【お知らせコーナー】

8月の論語塾は、8月16日(土)の第三土曜日はお盆ですので、次の週の8月23日(土)の第四土曜日に変更になりますので、間違いのないようにお願いします。

ぶん しつ ひん びん
文 質 彬 彬 (雍也第六・第十八章)

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

先月学んだ四字熟語です。文とは、人間が生まれた後に身に着けた知恵で人間の外見のことを指します。

質とは、人間が生まれつき持っている素質で人間の中身のことを指しています。彬彬は、調和(バランス)がとれていることです。つまり、人間は、外見と中身の調和のとれた人になることが大切で、そういう人が真の君子と言えるのです。思い出してくれましたか。

この章句を引用しながら塾生のみんなには、次のようなお話もしましたよね。

みんなは毎日一生懸命勉強していると思うけれど、好きな勉強も嫌いな勉強もしなければ駄目なんですよ。何故なら、好き嫌いに関係なく、全ての科目を勉強することによって、視野(物の考え方の範囲)が広がって色々なことを考えられる人間になれるのです。それによって、善悪(いいことと悪いこと)の判断がしっかりできるバランス(調和)のとれた人になれる訳です。塾生のみんなは、そういう人間になるために勉強していることを忘れないでほしいと思います。

難しい四字熟語ですが、本塾に通う塾生だからこそ、是非、覚えてほしいのです。